

御学問所上段の間 障壁画「十八学士登瀛州図」

じゅうはちがくしとうえいしゅうず



「京都御所 宮廷文化の紹介」
＜平成29年秋＞（平成29年
11月1日（水）～5日（日））で
は、明かり障子を開放しますの
で、室内の障壁画がご覧いた
だけます（気象状況などにより
閉鎖する場合があります）。



御学問所



御学問所は、読書始めなどの学芸関係の場であるとともに、臣下との対面にも使われ、明治新政府の樹立を宣言した
「王政復古の大号令」もここで発せられました。全6部屋から構成されており、その北東に位置する上段の間には、
じゅうはちがくしとうえいしゅうず かとうえいがく
「十八学士登瀛州図」と題し、部屋の四方の襖や壁合わせて18面に狩野永岳が色鮮やかな障壁画を画いています。



御学問所上段の間「十八学士登瀛州図」画：狩野永岳





琴の音を聞く人物と景色を眺める人物



琴を弾く人物



書を読む人物



食事やお茶をする人物

えいしゅう

瀛州とは中国で神仙が棲むと伝えられる山のこと。唐の

たいそう

二代皇帝太宗がまだ位につく前、文学館を開き18名の文士を集めて文籍を論じあい、十八学士と称して重く礼したので、天下の人々はそれに選ばれたことを名誉として「瀛州に登る」と言ってたたえたということです。

障壁画には、食事やお茶、碁、書、琴や絵を楽しむ学士、それらを聞いたり見たりする学士、景色を眺めたり、立ち話をする学士、十八学士のお世話をする者など、文学館内の様子が四方にかけて画かれています。

とじょかい ぼうげんれい うしねい

文学館に入った十八学士は、杜如晦、房玄齡、于志寧、

そせいちょう せつしゅう ちよりょう ようしれん りくとくめい くえいたつ りげんどう
蘇世長、薛収、褚亮、姚思廉、陸徳明、孔穎達、李玄道、



絵を揮毫している人物とそれを見る人物

りしゅそ ぐせいなん さいいんきょう がんそうじ きょけいそう せつげんけい ふたぶんたつ そきよく

李守素、虞世南、蔡允恭、顔相時、許敬宗、薛元敬、蓋文達、蘇勛の18名で、そのうち、杜如晦、房玄齡と虞世南の3名

は、紫宸殿にある古代中国の賢聖を画いた賢聖障子(栞其の十四で紹介)の中にも画かれています。